

## リーダーとは何か

第 11 期 内藤 節

リーダーとは何か。この一見哲学めいた問いについて思案しようとした私は、現代人らしく、それがまるで遺伝子に本能の 1 つとして埋め込まれている行動であるかのごとく、「リーダー Wiki」というワードをググっていた。Wikipedia によると、リーダーとは、「グループ、集団を先導、指導、統率する存在」であるという。なるほど、Wikipedia に記載されている定義が正しいとするならば、私は全くリーダーらしくない人間である。集団の先頭に立って仲間を引っ張っていけるような力を持っていなければ、仲間に対して何かを偉そうに教えてあげられる能力もなく、集団をまとめられるカリスマ性を持っているわけでもないからである。

とはいえ、私がゼミ長になった当初は、私も、ゼミを先導、指導、統率する存在になろうと奮起し、一心不乱にゼミ活動に邁進した。なぜなら、何を隠そう私の中のリーダーという概念、ひいてはリーダーの理想像も、まさにそのような存在だったからである。しかし、なれなかった。七転び八起きの精神で必死に頑張っても理想に近づくことができず、失敗に失敗を重ねるたびに心がゴリゴリと削られた。転んでは起き上がり、転んでは起き上がりを繰り返すうちに、転んで起き上がる様にもキレがなくなり、挙句の果てには、八転びした時、私は起き上がることをやめた。何もかも失った私は、地面に大の字になって寝転がり、ひたすら物思いに耽った。私の頭は意外にも冷静で、様々な物事に考えを巡らせることができた。その沈思の中で私が強く感じたのは、過去の自分は、らしくない自分になろうと必死で周りが全然見えていなかったということと、そんな私にも、今まで一緒に歩いてきてくれた仲間がいるということだった。私について来てくれたと言うのはおこがましい。むしろ、私がついて行ったと言う方が正しいだろう。しかし、私は、それでも良いのではないかと思っている。常に仲間の一步後ろを歩いて、誰かが列から遅れていたならそっと手を差し伸べて、列に戻るよう後押しをする。そんなリーダーがいても良いのではないだろうか。うん、いても良いと思う。

このリーダー像は、Wikipedia にも載っていない、私だけのリーダー像である。だから、このようにあれ、と誰かに説く類のリーダー像では決してない。これはただ、残り僅かな小野ゼミ生活をより充実なものにするために、そして、卒業後の人生も実り多いものにするために欠かせない心の指針である。しかし、いつしか、今の私の気持ちを率直に綴ったこのエッセイが、同じ悩みを持つ未来の後輩の誰かに、心の余裕を与えることがあるかもしれない。そんな、あつたら素敵だけど、ほぼ 100%ありそうもないことを願ったところで、筆を置こうと思う。